

## 『あなたはわかりますか』 (使徒の働き 8章 26-40節) 2023.9.24.

<はじめに> 出会いとは不思議なものです。お互いに意図したわけではなく、それぞれの動線がたまたまそこで交わったことから、その後の関わりが生まれることは珍しいことではありません。この箇所の人々もそうです。しかし、その出会いは単なる偶然ではなかったと聖書は言います。

### I エチオピアの宦官

#### ①この人についてわかること(27-28)

彼はエチオピア人で、女王カンダケの全財産を管理する側近高官でした。異邦人ながらユダヤ教の唯一の神と高貴な道徳に惹かれる彼は、礼拝のためエルサレムに向かいかけた途中、手に入れたギリシア語訳のイザヤ書の巻物を馬車の中で音読していました。

#### ②この人がわからないこと(31-34)

彼が読んでいたのはイザヤ書 53 章です。ここで預言者が記す「彼」とは誰のことなのか、わかりませんでした。おそらくエルサレムで教師・学者に尋ねても明解な回答を得られなかったのでしょう。しかし、神が立てたこの「彼」とその役割に、読者は強く惹かれました。

#### ③「わからない」から始まる

何がわかって何がわからないのかをはっきりさせることは理解への一歩です。聖書も神の計画・みこころも、わからないと言う方は少なくありません。すべてを理解し納得できなくても、信頼し、期待して向き合う中で、だんだん見えて来て、わかることがあります。

### II ピリポ

#### ①唐突な命令(26, 29)

サマリアでの働きが順調だったピリポ(5-13)に、主の使いは唐突にガザに下る道に向かうよう命じます(26)。ピリポの心中はどうだったでしょう。そこは人気のない荒野で、遠くに走る馬車を彼が認めた時、御霊は彼に接近するよう促します(29)。

#### ②不思議な展開(30-40)

ピリポが馬車に近づくと何か朗読するのが聞こえます。それがイザヤ 53 章であるとわかり、「読んでいることがわかりますか」と声を掛けます。真摯な質問(34)が返されて、この聖句からピリポはイエスの福音を彼に伝え、宦官にバプテスマを授けるに至ります(35-38)。

#### ③イエスの福音

神に背き離れた人間を救うために、神は自ら救い主を人の世に送られました。人として生まれ、人の罪を負って十字架で死なれ、三日目によみがえらえたイエスです。イザヤ 53 章は救い主の受難の預言です。宦官はこれを理解し、自分のためと受け取ったのです。

### III 神の導き

#### ①主の使い、御霊、聖書、主の霊

名称は異なりますが、神なる主が人に働き掛けるために様々な方法を用いておられます。表層の現象の背後で、見えざる神は計画をもって一つ一つを導かれます。この世界に神は今も確かにおられ、働いておられます。この方をご存じで、信頼していますか。

#### ②「わかる」と「信じる」

どちらが先行すると思いますか。理解と納得は信じる大前提です。理解と納得は相手の言動に対してか、それとも相手の人格との交わりから得たものでしょうか。すべてがわからずとも、この方のされること、言われることは確かだから、信頼し従うという関係もあります。

#### ③「なるほど」の神

神のことばとみこころは着実に確実に実現します(イザヤ 55:10-11、マタイ 5:18)。ピリポも宦官もここでそのことを実感しました。そして、これからも神は導かれます。だから、状況は変わるとも、彼らはすべてが解明されなくても、落ち着いて次に進みます。

<おわりに> 神の働きと導きを神秘的にし過ぎてはいけません。むしろ、関係を積み重ねることによって自然にわかり、期待・信頼できる類のものです。信頼して従うほどに、それがよく分かるようになって来ます。あなたはそれがわかってきていますか。(H.M.)